



人生も事業もサクセス！



人生の企画・事業の企画

2017年06号

LC= LC × 3R × 3H × 2A × 1C × Op

人生	環境	資源	健康	行動	機会	運用
ライフ サイクル	ライフ サイクル	3つの 基礎資源	3つの 健康資源	2つの 日常行動	チャンスを モノに	運用の レベルは

資産からのサクセス

資金や資産も中途半端に使うと、それはほとんど浪費になってしまいます。資金は徹底的に有効に使うものです。

会社には決算書があるので、経営状態はわかります。一方で個人は家計簿と貯金通帳くらいの管理で、決算書をつくるわけではありませんが、実際は会社とまったく同じです。

決算書は、損益計算書（P L）と貸借対照表（B S）がありますが、簡単に言うと、損益計算書は『儲け』、貸借対照表は『財産』に関するものです。決算書とは「1年でいくら儲かり、その結果、財産がいくらになったか」を示すものです。

家庭や個人で「給与が入り、少し残って貯金が増えた」なら、P Lでは利益があり、B Sでは財産が増えたのと同じです。

人生企画で考える場合は、少し長期的に考える必要があります。

B SやP Lで話すとややこしくなるので、手元にあるお金と考え、その活用方法で考えましょう。

事業主、経営者は仕入れをし、人を雇ったり外注したりして、付加価値をつけて自社の商品やサービスにし、事業を拡大させます。

資金を入れて新しい設備を導入すると、生産性が上がり、原価が下がるため、競争に勝てる要因ができます。事業拡大のための資金運用です。

会社勤務のビジネスマンなら、給与の一部を英語の学習や企画や経営の勉強に使うのは「お金を有効活用して技能を増やす」ことで、資産運用と同じです。

事業主は、仕事に忙しいまま、不況で資産を減らし、借金を増やす傾向にあります。たとえば飲食店の経営者なら、毎週他の飲食店に食べに行き、サービスをうけて研究する。これも資金の有効活用です。

資金はゆとりがあれば、さらに資金が資金を呼び、人や技術も引き寄せ、さらに事業は拡大します。資産の有効利用は、金融だけの運用でなく、事業の拡大発展や自分の成長に活用することです。

資産を軸に人生を豊かに

●若いときには……
資産は、決して平均的に使ってはならない
ムダなものは徹底的に省き、集中的に使う
目的は、成長分野のスタディに向け
徹底的にキャリアを身につける
知識を得るのではなく、**技能**を身に付けること
プロの領域になるまで**資産**を注ぎ込むこと
プロになれば**資産**も還流し、**人脈**も続々増える

※ 資金は、すぐに使えるお金、流動資産を示します

（株）企画塾 代表取締役の高橋憲行は、自分の人生企画を立てた20代のころ、独立はしたものの3資源はまったく無いことに愕然としました。大学で得た知識は何の役にも立たず、あまりの自分の能力のなさに気付き、とにかく技能、知識をつけなければと考えました。

そこで自分への収入の3分の1を、技能、知識型資源の蓄積に回そうと決め、お金が入ったら即座に書籍や必要なものを買集めていきました。すぐに資金が底を尽き、そのため10年近く無一文状態でした。しかし、書籍や資料、仕事は膨大に増え、10年近く経つと自分が著作を持つようになりました。

資産を把握する

個人では定期的な収入があり、貯金が増えているなら言うことはありませんね。事業主も会社や店が順調で利益があり、自分も給与をとれて会社も個人も資産が増えているなら心配はありません。

しかし、逆に新事業への進出や大幅な事業展開をしようとして資金が必要になったり、逆に事故にあったりして、大きな資金が必要になると、資金調達をする必要が起こります。

資金は、ビジネスの血液です。資金がなければ銀行や知人、親戚から借りるか、なんらかの手段を講じる必要があります。『借金も財産のうち』という言葉もあるように、借金ができる信用も、たしかに重要な要素です。

家族や会社の状況を見れば大体の必要収支は読めるものの、不測の事態に備えなければならぬし、自分の夢や目標に向かっていく必要もあります。ときには思い切った自己投資も必要でしょう。

人生企画では、一生の人生を自ら設計しますが、家族も含めて豊かな人生を送るための資金資産の運用も必要不可欠な要素です。

大きく、以下の項目を棚卸しておきましょう。

- 預貯金
- 有価証券
- 保険
- 土地建物
- 負債
- 相続資産

今使える金額が小計に、未来に活用できる金額が合計に出てきます。

資産の棚卸

現在のあなたの預貯金の残高を確認します。 1

預貯金

現在のあなたの持つ株券など、各種の有価証券を確認します。 2

有価証券

現在のあなたの持つ土地や建物の評価額を確認します。 (3)

土地建物

現在のあなたの負債を確認します。 4

負債

小計 $1+2+(3)-4=5$

いま使える金額

将来、あなたが親族等から確実に相続する可能性の高い遺産の評価額を確認します。 6

相続遺産

合計 $5+6=7$

未来に活用できる金額

(3)がカッコ付きなのは、80年代までと比べ評価が低く(都心を除く)、融資が受けられないことも多い時代であり、計算に入れにくいからです。保険など換金可能なものも、有価証券のなかに入れて計算するのもよいでしょう。

相続・事業承継

■事業主でも資産家でもないけれど…

「自分には、相続税がかかるほどの資産がない」という人でも、細かく資産（生命保険や借入金なども含む）の棚卸しや、親から受け継ぐ財産を把握しておきましょう。自分に何かあったときに、子供や配偶者が困らないような準備は、誰にも必要なことです。

「何かあったら」というのは一番考えたくないことではありますが、一度、「自分が事故にあったら」「病気になったら」と考えれば、何を準備しなければならないかが明確になるでしょう。

結局は家族の将来の不安を解消することとなります。

■事業主は次世代へいかに譲るか…も人生企画

資産家や経営者が子孫に受け継いでいくものは、2つに分けられます。それはお金に換算できるもの、換算できないものです。

ことに事業承継となると、経営者が長年かけて築いてきた顧客や取引先との信頼関係、経営者の信条などは、一般的な資産評価はできないものであるにも関わらず、世代交代の際には売上・業績に直接的に大きく影響するものです。

これらは書面や法律で次世代にすぐに渡すことなど、できるわけがありません。2世3世経営者ゆえの悩みとして、代替わりの際の顧客離れや、旧来からの取引先の高齢化、新規顧客開拓の苦労などは、一般的にも非常に多くあるものです。

相続や事業承継は、人生においてビジネス最前線の最中は考えにくいことですが、のちに子孫や会社に関わってくれている人たちが苦しむことがないように、早めに考え始め、準備を進めていきましょう。

人生企画は、自分だけのものではなく、次世代も含まれるのです。

実は、対策として「相続式」なども企画し、実践されており、今後、期待されています。

相続・事業承継も人生企画

